

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【9 月 10 月度の御金言】日蓮といふし者は、去年九月十二日子丑の時に頸はねられぬ。これは魂魄佐土の国にいたりて、返る年の二月雪中にしるして、有縁の弟子へをくれば、をそろしくてをそろしからず。みんないかにをぢずらむ。

【開目抄】（全集 223 頁）

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。（信心）
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。（行学）
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。（破邪顕正）
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。（示教利喜）
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。

☆ ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。（破邪顕正）

日蓮大聖人の法を信仰する私達にとって信仰は三本の柱で出来ている事を信仰者として常に自覚していて頂きたいと願っています。

御寺の本堂の黒板にも常に貼ってありますが、一切衆生平等成仏（全ての生命に南無妙法蓮華經の仏の生命が具わり、全ての生命は成仏する資格を平等に持ち、南無妙法蓮華經の信心修行をする事によってどんな生命もが必ず仏に成る事が出来る）その【信】を真ん中の中心にして【行】は【信】を深め、日々その事を自覚し、信仰心を深める為。【学】は自分が信仰している日蓮大聖人の法とは何なのかを学び、自分が何を信じているのか、何で信じているのか、何か分からないけどやっているではなくて、自分自身の名前、性別、住所、父母兄弟の名前を勉強しなくても知っているように、自分の人生の存在理由としての信仰という信念として、少しずつでも自己紹介するように学ぶのであります。その次の柱が【折伏（追善供養）】折伏は「法華經の敵を見ながら攻めずんば師檀共に無間地獄」との日蓮大聖人の言葉がある様に自分だけ信心していれば良いではなくて、日蓮大聖人の法しか一切衆生平等成仏の法は無いわけですから、他宗の悪口ではなく、成仏出来ない法を成仏出来ると思ひ込み、先祖代々やって来ている信仰、地域の沢山の人が昔からやっている信仰だから正しいだろう、抜けられないで風俗習慣として何でも拝むという人々に対して、仏像、菩薩像を本尊として、救って下さい、助けて下さい、守って下さい、功德を下さい、というおすがり信仰ではなく、どんな生命にも具わる仏の生命を示す南無妙法蓮華經の法を本尊として、全ての生命が平等であるという教えの信心をした方が良いという事を、親、兄弟、子、孫、友人、縁する人々に、入信しようがしまいが、自分が何故信仰しているのか、どういう法を信仰しているのかを、問わず語りの独り言でも良いから、何回も何回も話したり、手紙で伝えたりして行く事であります。

生きている人には、折伏をもって南無妙法蓮華經の縁を結び、亡くなった大切な人には追善供養をもって南無妙法蓮華經の縁を送り成仏を願うのであります。言えば争いになるから黙って自分だけやっていけば良い、波風を立てない方が良い、憎まれたくない、変

人に思われたくない等々では、日蓮大聖人の法日蓮大聖人のように世の中に伝えていく人がいなくなってしまう、日蓮大聖人の一切衆生平等成仏の法が世の中か無くなってしまう。一切衆生平等成仏の南無妙法蓮華經の法は、反対し憎む謗法の人にも必要な法なので、法の縁を生きている人にも亡くなった人にとっても絶対に必要な法なのでありますから、南無妙法蓮華經の縁を結んで行く事は、私達、法華經の行者の大切な責任と使命なのです。